

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890300252		
法人名	株式会社ライフモア		
事業所名	グループホームらいふ		
所在地	越前市横根町12-4-1		
自己評価作成日	令和 3 年 10 月 20 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号
訪問調査日	令和 3 年 11 月 10 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな環境で、四季を感じながら散歩をして気分転換を図り、ゆったりとした生活をしています。個人の意向をお聞きし、可能な限り本人様のしたい事に職員と一緒に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、越前市横根町の「レッツデイサービス横根」、「小規模多機能ホームかのん」、「レッツ定期巡回ステーション」が建つ敷地内に、令和2年4月に開設した、設立2年目の施設である。越前市の西部に位置し、周囲には山の樹々、田園、新興住宅地の環境が広がる丘陵地がある。「株式会社ライフモア」は、介護福祉事業の経営理念に「ご利用者様、ご家族様の幸福を追求するとともに、地域社会に貢献します。」と謳っており、新保1丁目にある2事業所とともに、各事業所が連携して「地域貢献に努める」ことを願っている。管理者は今年度の人事異動で着任したばかりであり、総括責任者と協議しながら、職員の専門性、認知症の理解、質の向上、地域との関係づくりに努めている。職員は、コロナ禍の厳しい環境の中で、職員同士の関係性を深め、利用者と家族の思いを把握し、「ストレスのない安心したケアの実現」に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念や職員の考え方は職員の目に付く所に提示しているが、グループホーム独自のものはないため、検討している。	玄関に会社理念、行動規範、事業所理念、基本方針を掲示し、会社理念を毎朝唱和している。事業所理念が7項目と長く、スリムな内容に改定中である。総括責任者と管理者は人事考課による面談を行い、記入書式の個人欄には、職員の年間目標や意見を書き込むことができる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時に、地域の方とすれ違い時に挨拶をする程度である。コロナ禍の現状を踏まえ、どのような関わりが出来るのかを考えていきたい。	自治会に加入しているが、コロナ禍のため地区や事業所の行事ができていない。天気の良い日には散歩やドライブを行っている。地域の「クリーン作戦」に職員が参加し交流している。地域交流の一環として事業所が招集していた医療連携推進会議や介護講習等はコロナ禍で休止している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で、経験を元に説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域代表者(区長、民生委員)等が参加できる日時で開催に努めている。コロナ禍の状況ではあるが、今後はご利用者やご家族も参加できるようにしていきたい。	区長、シニアクラブ会長、民生委員、市介護保険室、地域包括支援センター(きらめき)、併設事業所の管理者が参加できる奇数月の日時で開催している。	開設2年目であるため、地域との連携は徐々に時間をかければ良いが、家族会を作るという課題もある。家族代表と利用者が参加できることを期待する。また、議事録は全家族と欠席委員へ送付することが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の時に報告している。	市および地域包括支援センターの担当者とは、運営推進会議の際に意見交換ができています。事業所としては、今後、日常的な地域との関係や取組み等を考える上で、行政との積極的な関係を図る必要があると考えています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加する機会を設け、又、委員会等で議題にあげている。参加できない職員は、報告書や口頭で共有できるように努めている。	研修委員会とサービス向上委員会は兼ねており、研修議題を検討している。毎月、併設事業所と合同で開催するリスク管理委員会で身体拘束も協議し、会議内容を職員に伝えている。日常支援で拘束があれば職員同士で注意し、管理者も対応に努めている。玄関は日常的に施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修がある時には、参加できるように努めている。入浴時等には、全身チェックを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加する機会を設け、又、委員会等で議題にあげている。参加できない職員は、報告書や口頭で共有できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、重要事項説明書と契約書にて説明し、同意のうえ署名を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家人面会時や電話等で本人の情報をお伝えする際等に、意見や要望をお聞きし、職員にも伝達している。	家族には、電話、面会、郵送の機会を利用して利用者の状況を知らせ、意見や要望等を聞いている。意見箱を玄関に設置しているが投書はあまりない。家族会の結成は検討中である。併設事業所と協議し、今後家族へのアンケート調査を実施する予定である。	玄関に意見箱を設置しているが、家族会を作っていないことを考慮すれば、利用する側の思いを知ることは大切なことである。家族へ意見・要望等のアンケートを実施することを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの際に、職員の意見を確認している。日々、困りごと等ないか傾聴している。	職員の個人面談を会社代表者と総括責任者が行っている。日常では、ミーティングや会議で管理者と話す機会を確保している。併設事業所との全体交流会や内部研修を開催し、総括責任者、管理者、労務士が同席して協議する機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入しており、自己啓発や給与に反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に、職員・パート職員を問わず参加している。外部研修についても、出勤扱いとして参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在のところ、検討中である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族からの情報を元に、生活歴や趣味嗜好を活かせるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に要望等をお聞きし、その都度情報を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居した後の考えをお聞きし、他のサービス等も必要になると判断した際には他のサービス特性や費用等の説明をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者や職員が、笑顔をモットーに共に作り上げていく生活を目指している。安心して過ごすことができるよう、日々の信頼関係を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染対策に注意しながら、短時間でも面会に来て頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人が訪ねてきたり、近隣に住む家族の元へ外出したりしている。	利用者の馴染みの人・場所等は、入居時に聴取したことはフェイスシートに、日常から得たことは業務日誌とケース記録に記録している。コロナ禍ではあるが、要望があった菊人形の鑑賞や、家族の協力を得た一時帰宅等ができています。知人との面会、馴染みの美容室、電話等、関係を継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事作業を一緒に行ったり、出来ない所は出来る人が支えたりしている。話が合う人とは、食事の時に隣同士で座れるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	カンファレンスを行い、情報を共有している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の要望を傾聴し、サービス内容に反映している。ご本人の要望や不安を和らげる効果として、ご家族への協力も依頼している。	職員は日常の関わりの中で、利用者の表情や行動、思い、意向等を把握するよう努力している。障がいや高齢により、利用者が自身の思いを表現することが難しくなっても、笑顔と柔軟な関わり方で対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族と様々な会話を通して、ご本人の生活歴を引き出せるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	知り得た情報を、業務日誌や口頭で職員間の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時に、日々の生活状況やご本人の思いを聞き取り加えている。ご家族を中心としたカンファレンスの実施は出来ていない為、今後検討している。	ケアマネジャーは、当事業所と併設事業所の双方のプランを作成している。毎月のケアカンファレンスのまとめ、利用者や家族とのカンファレンスの必要性等、今回の調査では、それがチームとして十分に機能していないと判断する。ケアマネジャーの兼務解消は最重要課題となっている。	まずは毎月のケアカンファレンスを見直し、次に少なくとも3か月ごとのモニタリングの実施をチームで行い、管理者が確認した上でケアプランの作成を行うという一連のシステムを整備し、原点である「チームでつくるプラン」の実現を期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録、経過記録にて共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診同行などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握する事に努め、対応していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族が希望された医療機関に、受診に行っている。月2回、協力医による訪問診療以外に、必要時往診・電話等で現場で行える指示を受けて支援している。	利用者全員、協力医が主治医になっている。協力医の定期往診を行い、利用者・家族の安心を確保している。専門医の受診が必要な場合は主治医から紹介し、家族が付き添いを行うが、職員が付き添うこともある。受診結果は家族へ電話で報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活で得た情報を伝え、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供や退院前にカンファレンスにて情報を求め、状況把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、終末期対応者はいない。	重度化と終末期に向けたマニュアルを整備している。「看取りの指針」を作成しているが、会社が実施していた訪問看護が廃止したこともあり、看取りは行わないことを家族に伝えている。将来、会社では「ライフクリニック」を作る計画を検討しており、その際に、看取りについて再検討することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や緊急時の初期対応の訓練は、行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災についての避難訓練を実施している。	年2回、併設事業所と連携した火災避難訓練を昼夜を想定して実施している。地域との将来に向け、BCP(事業継続計画)を検討中で、感染症対策も含めた「横根地区協力体制」を策定する方針である。備蓄品はリスク管理委員会で、事業所独自の備蓄を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけを行う際は、個人の尊厳やプライバシーに配慮し、トイレ使用時は小声で話すよう配慮している。	会社理念、事業所理念に「利用者の尊厳とプライバシーの確保」と「ストレスのないケアの提供」を謳っており、同性介助に努めている。職員同士や管理者にも個人の尊厳・プライバシーの配慮が行き届いている。個人情報に記載した書類は、事務所内の鍵付きロッカーに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望が叶えられるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日に、ご本人がしたい事を聞いたり、選択できる提案を行ったり、個人がしたい事を優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を自分で選び、化粧をしたりおしゃれを楽しんだりしている。手が不自由な方には、職員が髪を結ったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものを聞いたり、献立を見て話したりしている。可能なご利用者には、台拭きや盛り付けを職員と一緒に取り組んでもらっている。	ご飯は炊くが、その他は会社系列の宅配を利用している。おかずは6品も付き、利用者も盛付を手伝っている。朝食には1品だけ事業所側の追加がある。利用者の要望で、季節の行事食、おやつ作り、デリバリーも利用している。口腔体操を行い、職員は見守り後に食べ、後始末には利用者も参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量の記録や好みの飲み物の把握等を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は声かけをし、自分で出来る方は見守りで、一部介助が必要な方には一部介助で口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	車椅子の方であっても、トイレでの排泄を基本としている。	個人別の日報の排泄パターン表を利用している。昼夜ともにおむつ着用の利用者がいないため、できるだけトイレで排泄が行えるよう支援している。夜間はパッドを利用しているが、1名がポータブルトイレを、2名が離床センサーを利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や可能な運動、体操の声掛けしている。排便確認行い、医師の指示のもと、個々に応じた支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声掛けして嫌がる時は、時間を変更したり日程を変更したりして対応している。排泄の失敗等の汚染時は、その都度対応している。	週2回、午前中に入浴している。入浴拒否や清拭利用があることから、週6日の入浴日を検討している。入浴剤は使用せず、湯は1・2名ごとに交換している。浴槽を跨げない利用者用にチェア一式リフトを備えている。担当職員は1名だが、状況に応じて人数を変えて対応している。冷暖房を完備している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の就寝時間に合わせて休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については、飲み込みまで確認している。何の薬か聞かれた時は、お答えしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換に、天気の良い日は、散歩やドライブの声掛けをして出掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご家族の協力のもと、美容室や外食に出掛けている。	天候を見て、日常的な散歩やドライブに出かけている。家族が迎えに来て外食や理容等に行くこともあるが、外泊は断っている。ボランティアによる外出は考えていない。買物も原則できないが、菊人形を見に行くことができた。将来的には、100円で購入できる自動販売機の設置を考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人で立て替えて、外出時に買い物をしている。ご本人が持っている方も居られ、ご家族に報告して指示を頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人の携帯で自由に電話されている。持っておられない場合は、電話を取り次ぎつないでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングから植木等を見ることができ、紅葉した木々で四季を感じたり、リビングのドアや窓を開けて、風を感じたりして頂く工夫をしている。	共用空間の天井は高く、庭向きの壁は全ガラスサッシと天窓で、庭の植木や暖かな光がいっばいに差し込んでいる。中央には3卓の食卓が並び、車椅子でも自由に動くことができる。廊下側のキッチンカウンターから全体に目が行き届くようになっている。壁には、手作りカレンダー等を飾っている。利用者が仲良くゆっくりと過ごしている、静かで落ち着いた雰囲気空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先にソファを置き、ご家族や職員、ご利用者同士が話せる場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族との写真を飾ったり、馴染みのものを持参されたりしている。ご本人が落ち着けるように、環境整備を随時考えている。	居室には、トイレと手洗い場がなく、ベッド、布団、家具、収納棚、エアコンを備え付けていても広々としている。大きな窓からは明るい日差しが差し込み、山並みや田園風景を望むことができる。利用者の馴染みのものが整えば、静かで居心地のよい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人に合わせてベッドの位置やポータブルトイレの位置等、随時検討している。居室内の環境整備に努めている。		